

平成25年度 第2回 広島市公共事業再評価審議会
会 議 要 旨

1 開催日時

平成25年10月7日（月） 9：30～11：00

2 開催場所

広島市役所 14階 第7会議室

3 出席者

(1) 委員

中山会長、池田委員、潮崎委員、谷本委員、長谷川委員、福田委員

(2) 広島市

事業所管局：下水道局 荒木次長、玉谷河川課長ほか

事務局：都市整備局 新上都市計画担当部長、藤田都市計画課長ほか

4 議題

再評価結果及び対応方針案に関する審議

- ・一級河川小河原川都市基盤河川改修事業
- ・準用河川岩上川改修事業

5 傍聴人の人数

〈一般傍聴〉 0人

〈報道関係〉 2社

6 審議結果

事業継続を妥当と認める。

一級河川小河原川都市基盤河川改修事業

【委員】

今から河川改修を行う区間において、既に改修したような部分を見かけたが、二重投資みたいなことにならないか。

【事務局（河川課長）】

ご指摘の部分については、河川改修ではなく、団地開発の関係で部分的に護岸ブロックを補修したものと思われ、今回の事業費にも含めていない。

【委員】

事業の必要性は非常に理解できる。

事業が長期化しているので、工事の長期化による地域住民への不便さや事業費の増加を軽減させるべく、可能な限り早期整備を願いたい。

審議会として、この事業を速やかに行うよう、附帯意見を付けても良いか。

【事務局（都市計画担当部長）】

事業者としては、市全体のいろいろな事業を考える必要があることをご理解いただきたい。

【委員】

現時点で事業進捗率が70.5%であるが、この事業ペースで平成29年度に完成出来るのか。

【事務局（河川課長）】

完成する見込みである。

【委員】

平成20年度の再評価においても、平成25年頃に70.5%くらい進捗してれば、平成29年度に完成するという予定だったのか。

【事務局（河川課長）】

そうである。現在は5年前と変わらない状況で進んでいる。

【委員】

全体事業費は29億9,400万円とあり、費用対効果分析での総費用については、平成20年度時点が29億8,000万円、今回が32億1,000万円とあるが、これらが異なる理由は何か。

【事務局（河川課長）】

費用対効果分析での総費用の計算においては、維持管理費を加えるとともに、現在価値化の係数を掛けるため、金額が異なる。

最終的に、全体事業費は 29 億 9,400 万円に収まる見込みである。

【委 員】

費用対効果分析での残存価値の説明を求める。

また、前回再評価時の基準年次はいつか。

【事務局（河川課長）】

残存価値とは、今回の施設が完成して 50 年経った後に、残っている価値を表している。

基準年次は、今回が平成 24 年で、前回は平成 20 年である。

【会 長】

議論も出尽くしたようなので、まとめにはいる。

今回の審議では事務局の対応方針案を問題とする趣旨の意見が無かったことから、事業継続については、「異議なし」ということでよいか。

【委員全員】

（異議なし。）

準用河川岩上川改修事業

【委員】

B/C の値が前回再評価時の 1.0 から今回の 1.2 に上がった理由として、被害対象となる世帯数の増加を挙げているが、具体的な世帯数はいくらか。

【事務局（河川課長）】

平成 20 年度は 33 世帯、平成 25 年度は 48 世帯であり、15 世帯増加した。

【会長】

これは、農業を止めた人が多いという見方でよいか。

【事務局（河川課長）】

水田面積は 52.7 アールから 49 アールに減り、また、畑についても半分ぐらいに減っているので、そのように推定される。

【会長】

前回再評価時に全体計画延長を 1,280m から 832m に短縮しているが、止めた区間に家屋はあるのか。

【事務局（河川課長）】

上流の右岸側に家屋が若干数ある。

この区間は、掘込河道になっていることから、ここに大きなお金を入れて改修するよりも、下流に集中して、この事業をやり遂げることを優先し、事業区間を修正した。

【会長】

地域の方に、その説明をしたのか。

【事務局（河川課長）】

説明はした。

地域の方からは、できることならやってほしいという意見が出ていたが、やむを得ないということでご理解いただいたものと考えている。

【委員】

この河川はホテルが見られる非常にいい環境にあるが、工事をしてホテルが何とか生き残れるような環境というのは保証されているか。

【事務局（河川課長）】

特に保証はしていない。

【委 員】

河川事業にもいろいろな種類がある中で、例えば、瀬野川のような河川環境整備事業とするか、今回のような治水対策事業とするか、どういう基準で決めているのか。

【事務局（河川課長）】

地域のニーズや空間的な条件を踏まえて、個々の河川に適したものを決めている。

なお、岩上川は治水対策事業であるが、環境について、出来るところは配慮している。

【委 員】

B/C の値の推移を知りたい。

平成 10 年度と平成 15 年度の再評価時の値はいくらか。

【事務局（河川課長）】

平成 15 年度は 1.32 である。

平成 10 年度は、現在の費用便益分析の手法が出来ておらず、C/B というものを算出しており、その値は 18.4 である。

この数字は、得られる便益が投資した費用を 18 年余りで上回るという意味合いである。

【委 員】

岩上川は道路の整備を併せて行うことから、地域住民から平成 29 年度よりもっと早い完成を望む声はあるのではないか。

【事務局（河川課長）】

「道路を早く整備してください」という強い要望はあるが、市予算の関係もあり、地域の方には、「今後何年先ぐらいになりますよ」という説明をしており、そのやりとりの中で、理解を得たものと考えている。

【委 員】

事業が始まってから、25 年が経過しているが、今回の再評価にあたり、地球温暖化など気象状況の変化を考慮しているのか。

【事務局（河川課長）】

近年地球温暖化など気象状況の変化は言われているが、そこまでの変化を考慮した形の評価はしていない。

【委員】

再評価のベースになる国土交通省のマニュアルが変わらないところに原因があろうが、国のマニュアルの見直しは、どんな状況にあるのか。

【事務局（河川課長）】

便益以外の指標を設けるとか、国の事業において新しい指標を用いたらどうかなど、いろんな検討をされていると聞いている。

【委員】

団地開発により雨水の流出量が増え、流下能力が不足したという説明があったが、この事業が計画される前から団地開発があったのか、それとも、事業を始めてから25年の間に団地開発が進んだのか。

【事務局（河川課長）】

この事業の前に団地開発があった。

【委員】

団地を開発するとき、流下能力をチェックするしくみはあるのか。

【事務局（河川課長）】

大規模な団地開発を許可する際、例えば、下流を河川改修するとか、下流の断面で安全に水が流れるように防災調整池を作るなど、団地内に降った雨について流域河川に安全に流れるような対策を取るよう条件を付している。

【委員】

そうすると、この事業を行っている途中で、新しく団地ができこの河川事業の計画を変えなきゃいけないみたいなことは起こらないと考えて良いか。

【事務局（河川課長）】

そうである。

【会長】

議論も出尽くしたようなので、まとめにはいる。

今回の審議では事務局の対応方針案を問題とする趣旨の意見が無かったことから、事業継続については、「異議なし」ということでよいか。

【委員全員】

（異議なし。）